分散型再エネ地域システム分科会　23年度の活動方針検討

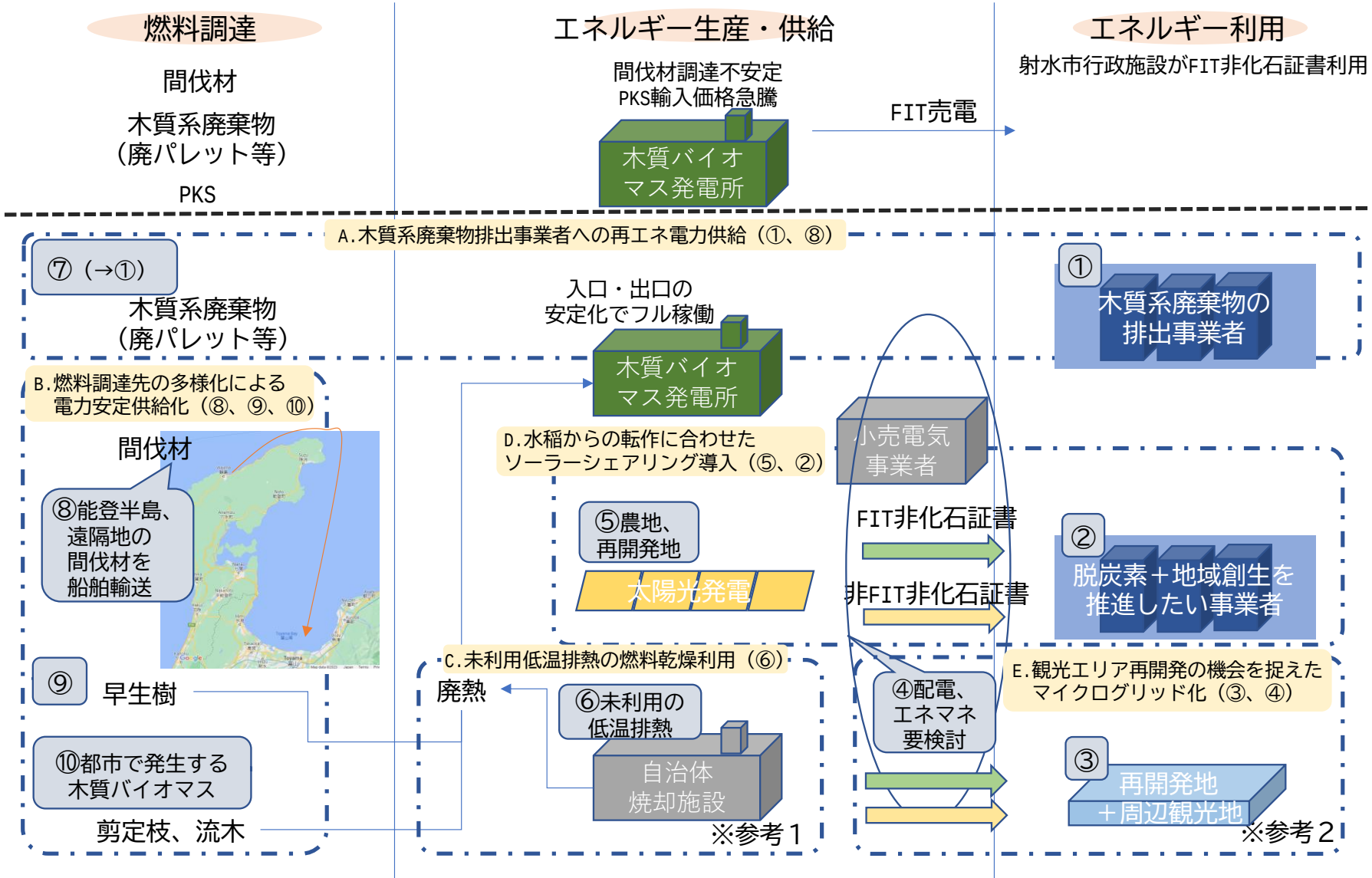
- リーダー：　影山嘉宏（J&T環境）
- サブリーダー：　松上哲也（一財）コージェネ財団）
- 担当顧問：　喜多川和典、荒木由季子
- 幹事：　山田芳幸（エックス都市研究所）

目的	分散型エネルギーリソース（ＤＥＲ）と需要を繋ぐ地域システム、スマートネットワークの構築により 脱炭素とサーキュラーエコノミー社会の実現を目指すこと
課題	ＤＥＲの導入がうまく行っていない。→需給の不一致。ネットワーク負荷の容量超過
分科会の役割	事業化のきっかけ作り、障害の除去、推進制度の構築など
進め方	**対象とするＤＥＲ** バイオマス発電、ごみ発電、食品残渣発電、太陽光＋農業、風力 **分科会の活動**　→　**分科会のアウトプット**　→　**アウトカム** モデル事業の例 北陸ポートサービス **モデル事業** 多くのメンバーの参画 地方自治体、国、学、 電力会社の参画 需要側の参加 **→課題の抽出等** **提言** （国、自治体へ） 制度改良 制度構築 補助・支援 **マッチングの調査・検討** 候補地（共同実施者） （農家、森林組合など） 積極的な自治体 と ＤＥＲ実施者 **→メンバーネットワーク活用した分科会活動の周知等** **マッチング** ＤＥＲ実施者 と 用地提供者 積極的な自治体 各メンバー または 複数メンバー共同で それぞれビジネス展開 全国に波及 **スマートレジリエンスネットワークと連携** 設立趣旨より スマートレジリエンスネットワークでは、情報技術を用いて各企業の持つ分散するエネルギー、データ、ヒューマンリソースといった分散リソースがつながる基盤の実現に向け、多くのリソースがつながるように社会に対して積極的に働きかけることを活動として行っていきます。これを通して社会のさまざまな分散リソースを連携させ、脱炭素社会の実現と社会のレジリエンスの向上を目指します。

モデル事業の例：北陸ポートサービス（富山県射水市）を中心としたケーススタディイメージ

検討ポイント
- エネルギー利用面　①②③
- エネルギー生産・供給面　④⑤⑥
- 燃料調達面　⑦⑧⑨⑩

A.木質系廃棄物排出事業者への再エネ電力供給（①、⑦）
B.燃料調達先の多様化による電力安定供給化（⑧、⑨、⑩）
C.未利用低温排熱の燃料乾燥利用（⑥）
D.水稲からの転作に合わせたソーラーシェアリング導入（⑤、②）
E.観光エリア再開発の機会を捉えたマイクログリッド化（③、④）



第５回　分散型再エネ地域システム分科会

日時：2023年6月1日（木）15：00～17：00
場所：日本プレスセンター9階小会議室＋オンライン

議事次第：
1.　メンバー自己紹介
2.　23年度活動方針案の説明
3.　アンケート回答結果の確認
4.　具体的な分科会の活動に関する意見交換

＜意見交換テーマ例＞
①「モデル事業」について
・北陸ポートサービスのモデル事業について
・その他のモデル事業について
②「マッチングの調査・検討」について【資料04】
・シーズ：DERの内容は？
・ニーズ：環境省の再エネ関連事業にみる自治体のニーズ把握
③見学会について
④その他（分科会開催頻度・スケジュール想定・懇親会など）

資料：
00　議事次第・メンバーリスト
01　再エネ分科会22年度活動報告及び23年度の活動方針検討
02　アンケート結果概要
03　モデル事業の例：北陸ポートサービスを中心としたケース
　スタディイメージ
04　再エネ関連事業関心自治体リスト

23年度再エネ分科会メンバーリスト

分科会メンバー	種別	法人名		氏名	第５回分科会	当日参加
○	本会員	（株）大島産業	バイオガス発電開発室室長	武田等	出席（オンライン）	○
○	本会員	環境開発（株）	取締役	金子仁哉	出席（オンライン）	○
○	分科会員	環境開発工業（株）	取締役	渡辺隆志	出席（オンライン）	○
○	本会員	九州北清（株）	専務取締役	前野慶太	出席（オンライン）	○
○	本会員	侑峡南環境サービス	代表取締役社長	河澄秋芳	出席（オンライン）	○
○	本会員		管理部管理課	菊地徹	出席（オンライン）	○
○	本会員	グリーン・サーマル（株）	顧問	河野義明	出席（リアル）	○
○	本会員	シナネンホールディングス（株）	成長戦略部　部長	高橋大輔	出席（オンライン）	○
			シナネンファシリティーズ（株）　代表取締役社長	川名英二	出席（オンライン）	○
○	本会員	（株）タケエイ	エネルギー事業部　部長	安倍誠	欠席	
○	本会員	富山環境整備（株）	イノベーション事業部　次長	今井麻美	出席（オンライン）	
○	本会員	日鉄エンジニアリング（株）	環境・エネルギーセクター企画部　部長	小野義広	欠席	
			取締役常務執行役員	山下芳浩	欠席	
○	本会員	日立造船（株）	環境技術推進部　部長代理	伴明浩	出席（オンライン）	○
○			環境技術推進部　主席技師	平岡和志	出席（オンライン）	
○	本会員	（株）富士クリーン	企画開発部　部長	町川和倫	出席（リアル）	○
			企画開発部　係長	八代直久	出席（リアル）	○
○	本会員	北陸ポートサービス（株）	代表取締役	加治幸大	出席（オンライン）	○
○	オブザーバー	北九州市	環境局環境イノベーション支援課	正野謙一		
○	オブザーバー	神戸大学	産官学連携本部アドバイザリーフェロー	信時正人	出席（オンライン）	
○	オブザーバー	（公財）東京財団政策研究所	主席研究員	平沼光		
○	リーダー	J&T環境（株）		影山嘉宏	出席（リアル）	○
○	サブリーダー	（一社）コージェネ財団		松上哲也	出席（リアル）	○
○	幹事	（株）エックス都市研究所		山田芳幸	出席（リアル）	○
○	顧問	（株）環境構想研究所	代表取締役	青山俊介	出席（リアル）	
○	顧問	（公財）日本生産性本部		喜多川和典	欠席	
○	顧問	長岡技術科学大学	経営協議会委員	荒木由季子	欠席	
	座長	東京農業大学	教授	末松広行	出席（オンライン）	
	副座長	（公財）　廃棄物・３R研究財団	理事長	梶原成元		
	副座長	東京大学	教授	藤田壮	欠席	

議論まとめ
- 今後2本柱「モデル事業」「マッチングの調査・検討」のうち、まず「モデル事業」を先行して検討していくことで合意された
- 今回の意見を基に、リーダー、サブリーダー、事務局等で今年度の活動内容を整理して、第6回分科会を開催する
- 環境省担当者等を招いた意見交換会や現地見学等の対面行事に合わせた懇談会を検討する

☛その他の主な意見は次ページ参照

第５回　分散型再エネ地域システム分科会での主な意見

■地元自治体を巻き込む

- 地元自治体に再エネ事業の意義を理解してもらえない。直接届かないなら、国から降ろしていくというようなことも必要か。
- 机上のプランでも国や自治体にプレゼンしていって、補助等の支援を引き出すことも重要。
- 事業を行っている国や、前向きな自治体の人を呼んできて話をするのもよさそう。
- 本分科会の活動を通して、行政への提言の仕方を見せてもらったりできればありがたい。

■各メンバーが持つ知見・情報を共有する

- 立地県市ではエネルギー分野の取組に積極的。→自治体の事例が入ってきたら、是非分科会で教えてもらいたい。
- 木質バイオマス発電で川上から川下へのユーザーとしてのノウハウを持っているのでそれを提供して分科会を盛り上げられたら。

■熱の有効利用検討の必要性

- 廃棄物焼却の廃熱を用いて飼料乾燥を行っている。
- 寒冷地域で積雪があり、周辺からは温水を引いてといったことも言われるが、焼却施設は規模が小さい。
- 周辺には畜産業（牛、豚、鶏）があるが熱が必要なのか分かっていない。
- 熱利用の課題がある会社が多いという印象。コージェネも同じ課題を抱えている。木質チップの乾燥などに熱利用ができないか。

■焼却施設の更新機会を最大活用する

- 焼却炉の更新も近いので今までと違うことができないかと考えている。
- 仲間づくりしながら次の施設に向けて勉強していきたい。
- 新炉を計画する時期。このまま建て替えるだけなのか、もう少し付加価値のあるものを考えられないか。

■地域システムづくりと規制との兼ね合い

- エネルギー回収について木質燃料なら木質だけ、ではなく混焼できないか。容器包装リサイクルを法の枠を外して地域で使えないか。
- 一廃／産廃の垣根をどう崩していくか。地域に根差した企業は一廃許可を持っているだろうが、大手は産廃が主体になる。そういうなかで地域企業として垣根を崩して電力利用等できればと。大きな施設がいいのか小さな施設がいいのかに悩む。

■地域に貢献するエネルギー拠点をつくりたい

- 立地地域の人口が減少。皆さんと議論して地域貢献アイデアを出せれば。
- 地域資源を活用しエネルギー回収・供給拠点が作れないかと考えているが、供給先をどうするか、設備費がかかる、まとまった土地が必要で前に進まない。
- 災害対応のため、地域では一次仮置場、二次仮置場を想定。場所の確保と電力の共有を合わせると自治体には受け入れてもらいやすい。
- 脱炭素先行地域の事例でもマイクログリッド敷設の目的は防災拠点への電力供給という観点がほとんど。PFI事業等、エネルギーについても官民連携で新しい仕組みづくりが出てきている。

■再エネ電力を付加価値を高めて売るための課題

- 自社だけでは電気を送れないのがネック。電力会社に相談したら料金上乗せになりメリットがでない。電力事業への進出も難しい。
- 電力会社に売電し、非化石証書をつける方法についても、電力会社と一緒に地元で営業をかけてもらったが、価格が高い、と買い手がつかない。
- 大企業の現地工場で再エネに関心は持ってもらえるが、本社が高い電気は買えないというし、仲介している電力会社も安くはできないで平行線。廃棄物の引取と電力供給と併せてオフセットという提案については関心を持ってもらえている。
- この8年間色々説明したが、再エネを買いたい人が出てこなかった。非化石証書分で紐づけできているのは5%に過ぎない。

■「モデル事業」について

- 「追加性」の要求に対応できる、地域で何度も作れる事例をつくれたら。
- 農業でバイオ炭が認められ、水田の活用でも方法論があるので、一次産業との連携がある。
- 大きくなくても地方から展開できるストーリー、バックグラウンドが見えるものを考えられたら。
- 電力供給信頼度を高めて停電しない発電所としていくこと、また付加価値として防災の拠点として位置付けること。

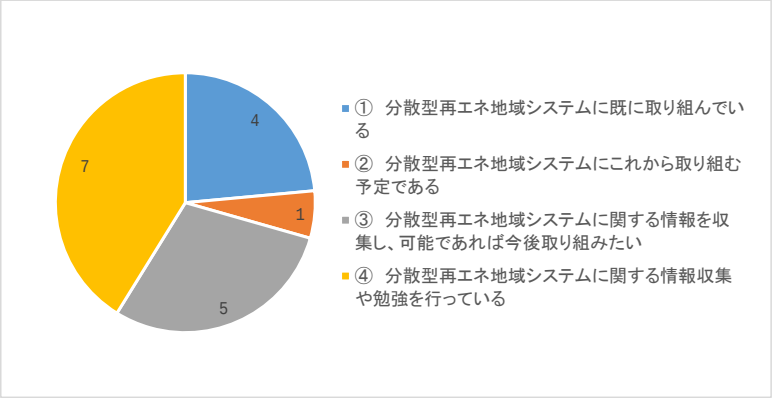
■「マッチングの調査・検討」について

- 国・自治体との連携について、地域にどういうニーズにあるのかを調べるたり、地域の情報を吸い上げることが検討の近道では。
- 「マッチングの調査・検討」よりも、まずは「モデル事業」でシナリオを作っていくことを優先させる。
- 自治体の取組から先行事例を抽出し、それを「モデル事業」の取組の中に落とし込んでいくようなやり方を考える。

分散型再エネ地域システム分科会メンバーアンケート結果（抜粋）

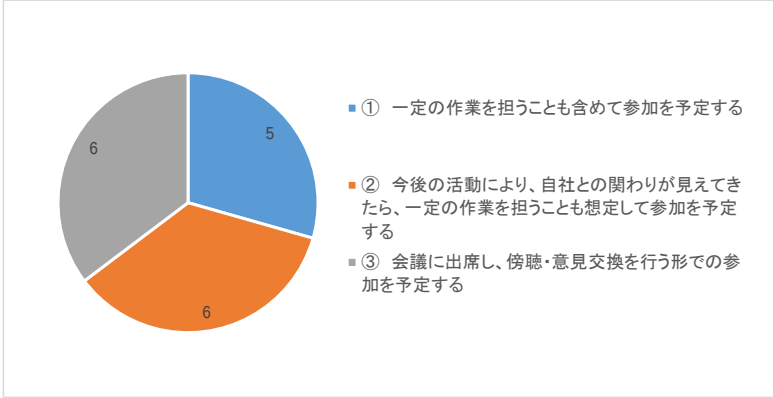
質問１　分散型再エネ地域システムへの取組状況について、最も近い選択肢を一つ選んでください。

① 分散型再エネ地域システムに既に取り組んでいる
② 分散型再エネ地域システムにこれから取り組む予定である
③ 分散型再エネ地域システムに関する情報を収集し、可能であれば今後取り組みたい
④ 分散型再エネ地域システムに関する情報収集や勉強を行っている



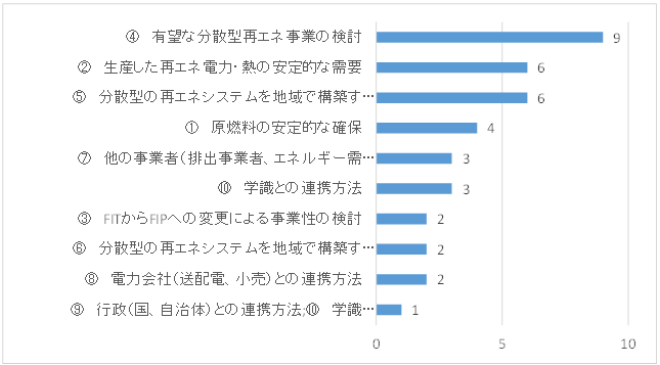
質問４　本分科会への参加意向について、最も近い選択肢を一つ選んでください。

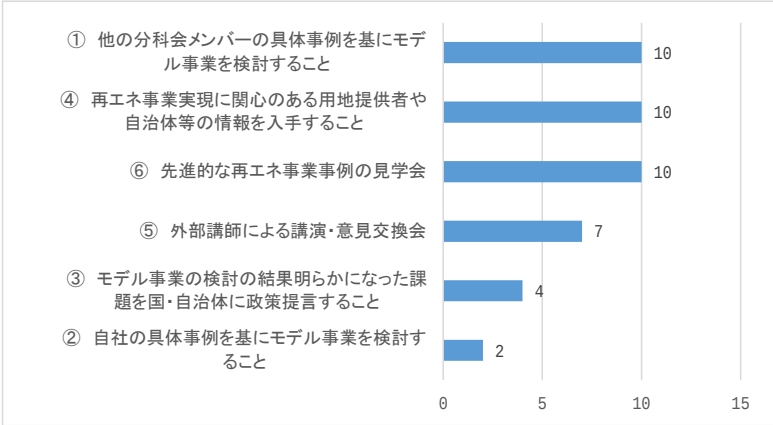
① 一定の作業を担うことも含めて参加を予定する
② 今後の活動により、自社との関わりが見えてきたら、一定の作業を担うことも想定して参加を予定する
③ 会議に出席し、傍聴・意見交換を行う形での参加を予定する



質問２　分散型再エネ地域システムに関する関心項目として当てはまるものを選択してください（複数選択可）。

① 原燃料の安定的な確保
② 生産した再エネ電力・熱の安定的な需要
③ FIT から FIP への変更による事業性の検討
④ 有望な分散型再エネ事業の検討
⑤ 分散型の再エネシステムを地域で構築するための技術的な方法論
⑥ 分散型の再エネシステムを地域で構築するための制度的な方法論
⑦ 他の事業者（排出事業者、エネルギー需要者等）との連携方法;
⑧ 電力会社（送配電、小売）との連携方法;
⑨ 行政（国、自治体）との連携方法
⑩ 学識との連携



質問５　本分科会の活動として期待する項目を選んでください（複数選択可）。

① 他の分科会メンバーの具体事例を基にモデル事業を検討すること
② 自社の具体事例を基にモデル事業を検討すること
③ モデル事業の検討の結果明らかになった課題を国・自治体に政策提言すること
④ 再エネ事業実現に関心のある用地提供者や自治体等の情報を入手すること
⑤ 外部講師による講演・意見交換会
⑥ 先進的な再エネ事業事例の見学会